

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 5月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 10 号 2014 年 5 月 10 日

第 27 期筑豊ゼミがスタートしました

平成 25 年 4 月 16 日(水)午後 7 時、
近畿大学産業理工学部ログハウスにお
いて、27名のゼミ生(内、学生会員 8 名)、
近畿大学から荒川学部長、日高学部



学生会員の皆さん

長補佐、アドバイザーの松崎先生、筑豊地域づくりセンターから小野副理事長と戒田理事(近
畿大)の計 32 名が出席し、第 27 期筑豊ゼミ開講式が
行われました。第 27 期運営委員会主税事務局長の
挨拶、開式の辞に引き続き、荒川剛学部長からご祝
辞を頂きました。

各研究会の内容がそれぞれの研究会長から紹介さ
れた後、各研究会に分かれて、今後の活動方針等が
話し合われました。

第 27 期筑豊ゼミ開講にあたって

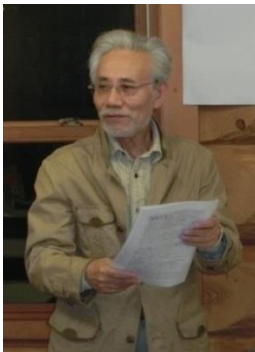
近畿大学産業理工学部 学部長 荒川 剛

27 期開講おめでとうございます。今年から、新たに「引きこもり研究会」と
学生の研究会として「情報発信/データデザイン研究会」が加わり、筑豊
ゼミも活気あるものになることを期待しております。先日、元九州工学部長
の曾根先生(東京在住)から、筑豊ゼミの事についてお尋ねの電話を頂
きました。25期以降の事を説明しましたところ、学生参加のゼミも開講され
たことなど少々の驚きをもって話をお聞きいただいたのではないかと考えています。九州工学部か
ら産業理工学部へ変わりましたが、平成28年には創立から50周年を迎えます。昨今は、準備さ
れた学研都市への大学誘致に乗る大学が多い中、近畿大学は石炭産業が終焉し、それに代
わる振興策の一環とはいえ、進出する大学が少ない中この飯塚に第二工学部を設立し、まったく
一から出発しましたが、皆様に支えられ何とか苦難を乗り越えて進んできました。近畿大学は、建
学の精神である実学教育がいろんなところで実を結び始めております。産業理工学部でも、近畿
大学がこれまで培ってきた研究・教育資産を地域の活性化につないでいく目的で「地域連携研
究所」を設立し、今後、地元の方と協同で地域がかかえているさまざまな問題に対して、積極的



に取り組んでいきたいと考えております。それに伴い、勉強・交流の場として筑豊ゼミがますます発展していくことを期待しています。まずは、今年1年の皆様の活躍をお祈りしております。

[ご祝辞を頂いた先生方]



小野地域づくりセンター副理事長



日高学部長補佐



戒田先生



松崎先生

第27期筑豊ゼミが目指すもの

第27期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

第26期と同じタイトルで、私の話には全く進歩の跡がみられませんが、今日の開講式では多くの学生さんの出席とともに、二人の学生の研究会長さんが活動方針を述べるなど、第27期筑豊ゼミでは、若々しい息吹と新しい「住学協同の実験」の動きを示すものとなりました。

未だ模索の段階といえる昨年一年の研究會活動を、「住学協同の実験」の一環としてレベルアップするために、第27期では各研究会が、大学や自治体あるいは産業界との連携の下に、住民目線での地域資源の発掘と調査・研究を進めていきたいと考えています。

< 第27期「筑豊ゼミ」の概要 >

1. 場 所 飯塚市柏の森11-6 近畿大学産業理工学部
2. 期 間 平成26年4月～平成27年3月
3. 会 費 地域づくりセンター 正会員 5,000円(年間) 学生会員 500円(卒業まで)
4. 研究会

- ・「筑豊ゼミ・市民遺産研究会」 会長 白神精一 顧問 長弘雄次
- ・「筑豊ゼミ・独楽研究会」 会長 笹原泰史 顧問 花元克己 アドバイザー 松崎隆哲先生
- ・「筑豊ゼミ・ひきこもり研究会」 会長 野田 隆喜
- ・「筑豊ゼミ・ビオトープ研究会」 会長 近藤 友里 アドバイザー 荒川 剛先生
- ・「情報発信/データデザイン研究会」 会長 神足 佳大 アドバイザー 戒田高康先生

5. 新たな「研究会」を募集

皆さんの思いを実現する「研究会」を創ってみませんか。
何時でもご相談に応じます。



新コンビ主税務局長と菊川運営委員長

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会

会長 白神 精一

活動方針

私たち市民遺産研究会はこれまで嘉飯桂、田川、直鞍の筑豊一円の自然・文化・産業遺産を中心に市民目線で調査してきました。

昨年度は個人がすばらしいと思う遺産を市民遺産として取り上げ筑豊の川「遠賀川」と道「長崎街道」にスポットを当て2班に分かれて年間を通じて四季の変化や時代への想いを馳せて研究解明してきました。

今年度はこれらのことを更に継続研究し、筑豊をはじめとする福岡県の炭鉱資源を活用した観光誘客戦略のワークショップや日本風景街道を北九州地区に続き筑豊にもモデルコース候補の名乗りが上げられているところから次の内容で研究活動を行います。

① 遠賀川研究班は

遠賀川の風景や自然が造る四季の美しさに焦点を絞るなど工夫を凝らした形で調査

② 長崎街道班は

地域の伝承を伝える資源や物語を含めた街道にまつわる歴史を引き続き調査、特に未研究である3つの各藩(黒崎・山家・原田)の研究で完結させたい。

③ 炭坑遺産研究は

筑豊に残る炭鉱遺産を活用した誘客を研究をおこなう。

①、②についてはこれまで通りの研究と大筋変わりはないが

③については今なお残る炭鉱関連施設やそれらに属する生活文化を含めることになるので、立坑や立坑櫓、巻揚げ機台座などの他長屋住宅の居住者やオランダや韓国からの労働者や当時の待遇の問題等さまざまな問題も出てくるのかもしれないが、学ぶ・体験(郷土間や歴史資料館)遊ぶ・憩う(自然・景観・イベント)食べる・買う(郷土食・銘菓)宿泊・キャンプへ繋ぎ他地区より誘客へ結ぶことが最終目的であるから、行政、商工会議所、青年会議所、観光協会などの協力を得誘客の方向性を持ち、併せて遺構の研究にもゼミでは比重をいれて両輪をうまく生かしてゆくのがベターなのかもしれない。

炭鉱遺産を研究をしながら遠賀川の景観や長崎街道の研究を併行してゆく方法をする事で少人数でも研究活動はできると確信しています。



長崎街道神崎宿櫓田神社(26期研修会 2014/3/8)

独楽研究会

会長 笹原 泰史

筑豊ゼミ「独楽研究会」を昨年に引き続き研究会を継続致します。

研究内容については「日本の独楽資料館」にて一捻りで12分以上回る独楽(最長時間は18分)を作っていますが、26期は独楽の回転数と回転時間の関係を研究致しました。27期も引き続き、近畿大学の松崎先生のアドバイスを頂きながら、長く回る独楽にするためには、どのような独楽にすればいいのかを科学的に研究し、26期でまだわからない独楽がふらついて起き上がる現象について、なぜ起こるのかもっと研究して解明していきます、また学会発表等の対外発表を通じて大名独楽だけでなく筑豊は「独楽の街」としても全国に発信できる様に挑戦します。また各地区でのイベントに参加して独楽回しの指導を通じて独楽の普及を行って行きたいと思っています。



研究内容

- 1、 独楽の構造、材質、形状等の研究
- 2、 独楽のふらついて起き上がる現象についての研究
- 3、 「日本の独楽資料館」及び各地区でのイベントに参加して独楽回しの指導を行う。
- 4、 その他

運営方針

独楽研究会は大学での研究は、独楽を科学的にデーターを取り、分析して、長く回る独楽を製作するために、どのような形状、重さ等にしたら良いかを研究していき、独楽資料館に置いて実際に回す練習や学外活動を行い学生会員や新規会員の参加を期待します。今年は大名独楽勝負を文化祭において行う予定にしています。

月間活動内容

- 4月 開講式及び新受講者に独楽の説明と昨年の流れの説明
- 5月 松崎先生の学会発表の内容説明、及び年間活動内容の打ち合わせ、
- 6月 大名独楽のデーター取り
- 7月～9月 大名独楽のデーター取り及び文化祭についての方法
- 10月 独楽の分析
- 11月～12月 独楽の形状等のまとめ
- 1月～2月 年間報告書のまとめ
- 3月 修了式

ひきこもり研究会

会長 野田 隆喜

活動方針

1. ひきこもり(含 不登校)の正しい理解の学びのうえで啓蒙活動をし会員の獲得をめざします。
2. ひきこもりの実態を調査・研究より把握し今ある社会資源の長短を踏まえ対応策の提言をめざします。
3. ひきこもりを通じて「今の社会」を世代間を超えて共通理解をめざします。

具体的な活動について

毎回 新規会員や「お試し」の方のために「ひきこもりの基礎的知識」の勉強会実施
そのうえで、下記1から5を 会員の状況をみながら実施します。

1. ひきこもり経験者との懇談
2. ひきこもりを持つ保護者との懇談
3. ひきこもりの実態調査・報告会実施 *助言 斎藤 環 氏
4. 精神科医 斎藤環氏(筑波大学 大学院教授)招聘 講演 勉強会
5. 上記をふくめ他必要な事

道をつくる ～ 筑豊より全国に発信 ～

この分野は今から日本では重要になります。ひきこもりは都会や裕福な家庭で起きる現象ではないからです。見方を変えれば 誰にもつながらない「孤独」が静かに広がっているのです 「無縁社会」に一直線です。

また「モンスターシングル」と呼ばれる現象も起き始めています。

15年前は一人でした「孤独」との戦いでした。今回4人の会員の方との始まりは孤独とは無縁です。夏までには10名の会員確保をめざし本格的な広報活動を行います。

他の研究会の皆さんもよろしければ参加ください。先駆的事業として全国に発信しましょう。

5月例会報告 8日(木)午後6時30分～9時 飯塚市市民交流プラザ(アイタウン2F)

8日(木)例会を開催しました。参加者1名増え、70代・50代・20代の女性2名・男性3名、計5名となりました。また、西日本新聞・毎日新聞の方も取材に来られました。後日、参加呼びかけの記事掲載になることを願っております。

例会は、ひきこもり講演会に配布するレジメと福岡県の精神保健センター作成の資料を使った解説と野田の現場での体験、ひきこもりとの関わりから見える世間や海外のひきこもりについての話を4人の会員の方が聴くというスタイルでした。筑豊地区の推計数字には驚きと半信半疑の心持ちかと思えます。1時間あまりの話の後、会員の自己紹介と6月の例会の日を決めて9時前に終わりました。会のすすめ方については、初参加やお試しの方そして現会員の確認のためにも最初にひきこもりの解説をする事としました。

なお、幸い例会日が異なりますので、他の研究会に所属していても、余分な費用なしで参加で



きます。一人でも多く方に「ひきこもりの正しい理解」を目指しております。

次回は、6月19日(木)午後7時からです。皆様の参加をお待ちします。

参加、あるいは「試しに」参加ご希望の方は、のだ yuru2yui2012@yahoo.co.jp にメールいただくと幸いです。

ビオトープ研究会

会長 近藤 友里

ビオトープとは、生き物(Bio)がそのままに生息活動する場所(Top)という意味の合成されたドイツ語です。都市部などで“人間によって再構成された自然環境“のことを特にビオトープといい、ビオトープの中のいろいろな種類の生き物は、成長に伴って生活空間を変えながら暮らしています。しかし、近年の度重なる都市開発の影響により、身近なビオトープは次々と姿を消しつつあります。

私たちビオトープ研究会は大学建物の整備に合わせて、大学敷地内に、環境問題を考えるためのビオトープを建設するにあたり、企画・設計・管理を目的としています。このような活動によって様々な生き物が暮らす自然と共存することは、私たちの身近な生活環境に潤いを与え、日常生活に豊かさをもたらしてくれると考えています。

昨年は、研究会設立、地元ビール工場内にあるビオトープ見学会とビオトープに関する意見交換会が主な活動でした。今年は、同じタイプのビオトープでなく特色あるビオトープを何か所か作ることで大学も含めた学校間での交流を活発化させるために、「どのようなビオトープが良いのか」具体的な提案を行っていきたいと思っています。そのためにビオトープの専門家による講演会を開催し、勉強会を行うとともに、ビオトープ施設の見学会を行いたいと考えています。

○今後の活動○

5月 講演会・勉強会 ～水中生物を主体としたビオトープについて～

6月 例会にて発表

7～9月 試験期間のため、一時活動休止

10月 講演会・勉強会(予定)

11月 ビオトープ 見学会

響灘ビオトープ(北九州市) または

里山ビオトープニ又瀬(山口県宇部市)

12月 例会にて最終発表



アドバイザー荒川先生と 近藤会長

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)

会長 神足 佳大

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)は、近畿大学産業理工学部(主として情報学科)の学生が、HP(ホームページ)を通じて筑豊地域の活性化を図る目的として平成 26 年に作られた組織です。現在は、情報学科の4年生が2人、3年生が3人、2年生が1人の計6人をコアメンバーとして、活動を行っています。

主な活動は、HP を用いての情報収集および発信の手法やそれらの背景にあるデータに関する事柄を調査・研究をします。そのため現在は、筑豊地域づくりセンターと筑豊ゼミのHPを用いて私たちが独自の改良を施し、良し悪し問わずユーザー側からの意見要望が届くほど親しまれるように模索しています。



研究活動の進め方

学生一人ひとりがそれぞれの役割に責任を持ち、チャレンジ精神を持って技術を取得し開発に取り組みます。また、周りの意見を取り入れて常にユーザーのことを考えて開発します。毎週水曜日に活動の打ち合わせや分析を行います。使用言語はHTML5(構造)とCSS3(デザイン)、開発環境ツールは現在検討中(Google web Designer、Bootstrap 等)です。

年間活動の予定

4月	開講式 研究会の説明
8～9月	夏休みの集中開発(参加できる人のみ)
9月末	HPのアップロード予定
3月末まで	HPの運用・保守



就任のご挨拶

第 27 期筑豊ゼミ事務局長 主税 洋三



筑豊ゼミが26期を境にNPO法人住学協同機構の傘下に入り新たなる活動の展開を始めたのですが、初年度は私としては何が何だかわからず、菊川運営委員長、戒田先生、小林前事務局長に付いて行くのに精いっぱいでした、諸先輩、皆様の助けで今27期を無事進めていきたいと考えております。

今期は、「ピオトープ研究会」とは別に「情報発信・データデザイン研究会」と学生さん主体の研究会も増え、また、社会問題にもなっている事で「ひきこもり研究会」を長年携わってこられた野田氏を中心にやって行かれる事は頼もしいことです。

筑豊ゼミが発足した一番の目的は「沈滞した筑豊を昔のように活性化しよう」と言う事でした、それぞれの研究会が観光・社会問題・環境問題等の一助になり、筑豊活性化に役立てられる事を祈念します。

また、近畿大学からも荒川学部長、日高先生、松崎先生の助言、協力いただける事大変感謝しております。

この一年無事終了できるよう頑張りますので、よろしく願いいたします。

退任のご挨拶

第 26 期筑豊ゼミ事務局長 小林 道男



このたび、筑豊ゼミが27期のスタートすることを機会に事務局長を、新進気鋭の主税洋三氏に、交代いたすことになりました。

26期の10カ月間の短い期間ではありましたが、新しい「筑豊ゼミ」誕生に関わりをもつことができたことは幸いでした。

27期は、新しい研究会が誕生し活動することになっております。

私も一会員として、参加していきたいと思っております。

5 月例会

市民遺産研究会、独楽研究会、情報発信/データデザイン研究会(pdd研)

日時:5月21日(水)午後7時～9時 (pdd研:午後5時～7時)

会場:近畿大学産業理工学部4号館1階視聴覚教室に集合、その後各教室へ

ひきこもり研究会

日時:5月8日(木)午後6時30分～9時

会場:飯塚市市民交流プラザ(飯塚市吉原町6-1 アイタウン2階)

情報交差点

筑豊ゼミ: <http://www.chikuzemi.com/>

e-mail: chair@chikuzemi.com(運営委員長)

: sec@chikuzemi.com(事務局長)

筑豊地域づくりセンター: <http://www.chikuhou-jugaku.org/>

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。皆様からの情報をお待ちしております。
予告だけでなく、結果報告もOKです。(上記アドレスまで)

田川地区の神幸祭

千年以上続いているという4月初旬の英彦山神宮神幸祭に始まり、風治八幡宮川渡神幸祭(http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/dentou/page_75.html)、春日神社神幸祭(岩戸神楽)(http://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/dentou/page_653.html)まで、彦山川流域をだんだんと下りながら、各地の神社、50ヵ所以上で催されているといわれます。

50ヵ所以上?「神幸祭・地域名」でのWeb検索では、とても50ヵ所は見つかりません。

福岡民俗芸能ライブラリー(http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/e_mingei/)の田川市・郡に掲載の獅子舞や楽打ち、祇園祭、盆踊りなど、全てを数えると50ヵ所程度になりますが。

官兵衛を支えた黒田二十四騎の男たち

～菩提寺住職が語る黒田家家臣団の絆～

日時:平成26年5月18日(日) 12:45～14:45 (受付12時～)

12時過ぎより武将隊による演舞などのアトラクション

場所:旧嘉麻市立大隈小学校・体育館(嘉麻市役所嘉穂庁舎隣)(嘉麻市大隈町731)

◆基調講演◆

「筑豊・朝倉を駆け抜けた黒田二十四騎の男たち」

講師:竹川 克幸 氏 (株)麻生西日本新聞TNC文化サークル 事務局長

◆パネルディスカッション◆

「菩提寺 住職が語る黒田家家臣団の絆」

パネラー:筑豊・朝倉地域 黒田家ゆかりの菩提寺住職

発行: NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第27期筑豊ゼミ

責任者: 第27期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者: 第27期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所: 〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第27期筑豊ゼミ

連絡先: 090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)